

日の出町民大学 0126 議事録 H20.01.30

日時 平成 20 年 1 月 26 日(土)10:00~12:00

場所 ①日の出町役場

参加者 磯部輝雄、西田鈴子、滝沢浄、横井昭代、嶋崎和子(5名)

日の出町:神田主任、吉村係長、小山主任

小林普子(ひろこ) DNO:開田、藤田、内田(書記)

*敬称略

1. 概要

‘みんなのおうち’で小林さんがどのようにして、外国人の子どもに日本語を教える事となったかの経緯を話してもらった。当初一介の主婦であり、今は新宿区と協働事業が出来るまでになった。また、この活動は日本サムソンからもボランティア支援を得ているとか、何かしなければと考えつつ今一歩踏み出せない我々に多くの示唆を与えてくれた。

2. 小林さんの講義

開田:小林先生は40代までは娘さん3人の世話をする主婦をされておられたが、これで良いのかと
思い、様々な変遷を経て、現在の‘NPO みんなのおうち’の事業外国人子どもの学習支援を
立上げられた。日本語の充分でない子供達が日本に住み続けなければならないのであるが、
子供達にこれで良いのか、日本に居る自分達は人間としてこれでいいのかとずーと考えてこら
れ今日に至りました。皆さんにはそんな思いはあるが、どのようにすれば、一歩が踏みだせる
かの一つのケースとして紹介して頂く事となると思っております。

小林:小林普子(ひろこ)と言います。日の出町は中曽根さんの別荘で知っておりましたが、わたし
の生れた愛知県の中部国際空港近くであります、そこと似ているような気が致します。自分
の里の村の人口は2000人程度で野山を駆巡って育ちました。31歳で結婚し、晩婚の私は母
にここに帰ってこないと言われるような田舎でありました。私は仕事を続けたかったのですが、
事情により専業主婦とならざるを得なかったのであります。子育てをしながら何かしなければと、
子供を寝かせた後、専門学校に通い、色々な試験にチャレンジした。主人は恐らく、自分の悩み
を充分には理解してくれていなかったけれど、(私を見て)何かをしたいが何をして良いか分か
らないという状況であると理解してくれていたと思っています。ある時、恩師が突然亡くなり、また3
歳年上の姉が乳がんとなり、自分も明日死ぬかもしれないとの衝撃を受けた。余命半年と言わ
れたらどうしようなどと思った。このまま目的もなしにボランティアをしてもいいのか、自分で何かせ
ねばと半ば焦り気味であった。東京都のホームページを見ていると、‘心の東京革命’を打ち出し、
子供を変えるのではなく、大人が変わることによって青少年の成長を見守ろうとの主旨で、協力
者を公募していた。私には特に何の特技も無いが、チーフアドバイザーを目指そうと考え、子
育て支援をしたいので、とカウンセリングの勉強をした。チーフアドバイザーになったが、2,000
円の謝礼を貰って、子育て中のお母さん方を集めファシリテータの役目をした。そこで、自分には何も無いと
思って心理学の講座を受け、子育て支援をして行かねばと思った。自分から積極的に動く事
で新宿区が公募する公募委員となり、更に区が次世育成行動計画作成公募委員となって以
来行政に情報が色々と得られるようになった。廃園となる保育園を利用して、子育てのお母さ

ん方が集える場所をと言う企画に参加した。そこを‘ゆったり～の’と呼び、今でも運営委員を続けており、今年で5年目に入った。そんな中で、(親が)日本語が判らなくて子供に予防接種も受けさせれない状況もあると認識した。‘これって変’と瞬間的に感じ、何か良い方法はないかと考えた。新宿区が主催する「ボランティアのための日本語教授方」を1万円の教材費で20時間の講習を受けた。これで子育て支援ができるのではないかと考えた。私と同じような受講者は20人弱だったので、その時の先生がボランティア団体を立ち上げたらどうか言ってくれた。私は直ぐにのるほうなので、他の一人と平成16年に‘新宿虹の会’を16名で立ち上げた。立ち上げたが、実務に乏しい人間ばかりで、どうしようと考えている時、高田馬場で中一の女の子が5歳の男子を突き落とす事件があった。女の子の母親は東南アジア系で、女の子は日本語が話せるが、その母親は日本語が殆どダメであった。親子の間にコミュニケーションのギャップが生じていた。また男の子も中国から来た子供であり、疎外感を持ったもの同士で仲良かったらしい。この事件と自分達の活動が同じ時期に重なり、国も動きはじめ文化庁で親子日本語教育を開催してくれないかとの依頼があった。費用は文化庁から国際交流財団を介して得て、親子日本語教室を開くことが出来た。親子日本語教室開催の委嘱を受け100万円の予算が付いた。猪講座に1回出ると一人2000円くらいでもらえる事になり、安いがお金が無かったので我々は動いた。文化庁の委嘱は2年で終わった。その事業を国際交流財団が引き継ぎ予算は100万から10万に減らされた。母親の心配は子供の教育であり、日本語が出来ないので将来どうなるのだろうかとの不安である。私の住む近所にフィリピンから来た男の子が、小学5年生で日本語が上手く話せなくていじめに合っていた。可愛そうと思い、日本語を教えようと考え、複児童センターに掛け合ってその子を教える場所を借りた。センター長も許可してくれた。また、その子の担任や校長先生に話を聞いたがその子の悪口しかでなかった。その子に日本語を教えたが、現在中学になっても、小学校3年生程度の漢字が書ける様になっただけで学校で授業にはついて行けない。その子に日本語と数学を教えるようになると、中国から来ている人から日本語を子供に教えてくれないか、と頼まれ暫くは指導していたが、自分一人では十分指導できないと考え、新宿区の教育委員会で何とかしてやってくださいとお願いしたが、冷たい反応であった。平成18年に、区が区とNPOとの協働事業提案制度を発表したので、‘ゆったり～の’の運営委員であるNPOみんなのおうち代表に相談した。NPOみんなのおうちで既に17年2月に新宿区の助成をもらい「外国籍の子育て家族と地域の子育て家族ツアー」をやっていたこともあり「外国人子どもの学習支援事業提案」を区に事業提案をした。区では50ほどの中から5団体を残し、その中に入り、歌舞伎町でと言うところで学習支援を昨年4月から実施した。日本に働きに来ている女性と日本人男性との間に子供が出来、その後男性は逃げてしまう。その母親は日本語が通じなくてホテルのベッドメイキングや夜の仕事をしており、日本語をしゃべる事は殆ど必要ない職場にいる。子供は日本語が上手くなるが母は同じ仲間と自国語で話しているので上手くならない。学校の勉強で日本語が判らないので母は子供に勉強を教える事が出来ない。普通であれば、小学校の子供には教科書をみながら、色々教える事ができるが、母親は教科書が判らないのでそれをする事は出来ない。また、中国、タイ、台湾から親だけが働きに来る程度生活の目途が立つと子供を呼び寄せるケースがある。そんな子は新宿の公立小、中学に入ってくる。その時、子供には通訳を50時間くらいつけて日本になじませようとするが、全

然不十分である。自分が外国に行き 50 時間くらいで、その授業を理解できるかを考えればわかるとおりである。中学校の勉強は更に難しい。日本語が理解出来ないなら殆ど授業についてゆけない。また、母国に子供をおいて働きに来て日本に居住し、日本の男性と結婚して子供を呼び寄せる事もある。子供は日常会話程度できるが読み書きが不十分である。学習言語が獲得出来ない。‘次の計算をしなさい’だけであればいいが、‘つぎの計算をして、小数点以下を四捨五入しなさい’などになってくるので、問題の意味が判らない。またその概数を出して商を求めよなどとどんどん深くなってゆくの、質問の意味すら判らないので、当然答えが判らない。学習言語が理解できないので、中国で数学をたとえ 100 点とっていたとしても、零点という事もありえる。そんな子供の将来はどうなるか。中学までは義務教育なので行く事となるが、高校へは行く事が出来ない。学力的に内申も勿論だめであるし、日本語が読めないので入試にも通らない。しかし、歌舞伎町には子供の働き場所はいくらでもある。男の子は手下に、女の子は性産業である。

我々は何を目標とするのか。高校に入れるようにすればなんとかなるのではないかと考えている。コンビニでアルバイトをするにも高校を卒業していないとアルバイトができないのである。従って、中卒ではどこにも働く場所がなく、歌舞伎町という職場しかない。これではいけないのでこれを支援しようと区に提案して、事業にしたいと思っているが、かなり大変である。この‘NPO みんなのおうち’活動は現在 2 箇所で開催している。課題は色々あるが、その一つに、先生を探すのが大変である。当初ボランティアさんを集めた所、16 人に集ってもらった。みんなほぼ、初めてなので、大学の先生を呼んで研修する事とした。我々が勉強を教えていくボランティアを通し、子供がどう変って来たかであるが、ボランティアは大学生~75 歳までで、女性は主婦が多い。二人は元教員でありがたい存在である。現在ボランティアの登録は 49 名であり、男が 17 名であるが、男は男、女性は主婦、学生は学生とそれぞれ色々な役割を各自が理解しているように感じている。子供は日本語ができないのに、必死に勉強する姿を見て何とかしなければと思う人が多いのではないかと考えている。回を重ねるに従って、男性は競争社会でしっかり生きてきたものを見せなければいけない。サラマンでも仕事をするのが大変だ。男性には父親の役割をやって欲しいと考えている。と実際その通りにやってくれている。男の方からは教え方の提案があったり、読解力がないからこれをやってみようとか、僕はこの子の面倒を見たいなどである。何となく、子供の様子がおかしかったり、自信を無くしている子供を見ていると、それは朝も夜も食べていなくて給食しか食べていないので、お腹が空いているのではと気付いた。親は 24 時間働いているので、本当に給食だけで、空腹で来ているから、イライラしたり、元気がでないんじゃないのかなと女性からの意見があったりした。そこでおやつを準備する事でやる気が出てきたりした。そうなるとう女の子が当番でそれを配っていたりしている。学校でくさいといわれる子もいるようであるとの報告もある。学生は子供と年齢が近いので人気があり、そのような友達的な意見を聞く事が出来る。それぞれの人が夫々に役割分担している。男は 3 分の 1 しかいないが、これは男の人に向いているボランティアと思う。一旦走り始めると、ありがたい事に誰かが助けてくれる。49 人で 49 の特性がある。73 歳の男性は最初‘俺がたたきなおしてやる’といていたが、今ではとてもよいおじいちゃんを演じている。また、その方の趣味は電車を作る事で夏休みに自由研究となるような電車作りをしたら、子供達に大人気であり、子供のエネルギー

は凄いと行って若返り、たたきなおす必要はなくなった。また、定年退職した校長先生と教頭先生がいて、一人は東村山から当初は週1回の予定であったが、毎日来てくれる事となった。中国と日本では数学の進路に差があり、それで予想問題を作ったりして対応している。夫々の教科には指導の為に教科書が1冊も購入した。また毎回継続的に学習記録をつけている。大久保児童館では来るか来ないか判らない子が多く、榎とは雰囲気は少し違う。49名のボランティアが現在いるが、更に新宿区ではホームページで募集しており、昨年9月には日本サムスンから問い合わせがあり、ボランティアに来たいとして社員の方が3,4名2ヵ月間来てくれた。玉川高校でスポーツイベントがあり招待されたが、この子の足代がないので、どうしようと考え、日本サムスンに頼んで足代をだして貰った。11人分+8人の引率の分も、企業がここまで協力してくれるとは思わなかった。富士ゼロックスも貢献してくれた。日本サムスンからボランティアに係った人の表彰があり、このボランティアの人が金賞を貰ったとのこと。それで、今度韓国のサムスングループで紹介するとの事らしい。何事も思い切ってやると芋ずる式で人間関係が広がる。勇気を持ってお願いしに行った。私は団塊の世代であるが、いい年になったのもう失うものはないなと思った。やりたい事をやる。明るくしてくれてありがとうと言って貰えると凄いいものでそれが生き甲斐となる。こんな活動をしていると自分の娘も協力してくれるようになってくれた。自分が変わったから家族が変わり、周りの人も変わる。大それた事をしていないけれど、ボランティアさんに足代を渡すと「たすかります」と言ってくれる。このようなボランティアでも、多少なりともお金が無ければダメだろう。どこからかお金をひっぱって来て続けさせる事が必要。具体的には企業や行政という事となるであろう。そこでボランティア活動を売りとしているような所に狙いを付けてお願いに行く。子供達からは500円を保険代として貰っている。出せない子もいるが授業が上手くゆくのは財政の裏づけがあるからとも思っている。新宿区は場所を確保する事が難しいが児童館は夜、空いているので、区の方も児童館ならOKとの事であった。

横井: 自分の子供は既に成人しており近くにいるので、先生のお話を伺って自分は幸いと感じた。

小林: 委員会で勉強し、一昨年夏に学習会を開いた時に知った事である。外国人と同じ日本人も朝と夜を食わず給食しか食べていない子がいるという事を。親が子供の面倒を見ない。そんな状況なので、自分達で食事を作ればちゃんとした食事が取れると、館長さんと地域の高齢者が自分で何か料理を作る事を教えねばという事で学習会に参加した子供向け料理教室を実施した事もある。8月の終わる時点で、中三の子が高校見学に行きたいとの事で子供の足代をだしてと言うと、親は何で出す必要があるのと言うような親もいた。実際3人を高校見学に連れてゆき、彼らは本当に足代しか持たず、帰りがけにお腹がすいてきて、コンビニでおにぎりでもと、とても迷ったがおにぎりを買うのを止めた。また回転すしやに小学生が一人で行く子供が新宿にはいる。親から見捨てられ、学校から見捨てられ、児童館でたむろしている。犬には餌をやるほどの生活レベルであるが、子供には食事を作らない。犬の散歩の手伝いでお金を貰っている。それで、コンビニやファーストフードを食べている。自分の家が経済的に困っていても子供の面倒は見ない。先日館長さんが中古の洗濯機を買おうかと話をしていた。子供の服がくさいので、聞いてみると1ヶ月ほど着替えをしていないとの事。このように、日本人の子供にも同じ状況が起こっている。私はこれらの現実を見ないならすませる事ができるが、見てしまったからやるしかないと思った。新宿区の人口は約30万人でその内10%の3万人が外国

人関係で登録されている人である。不法に入っている人を入れると実数はもっと多いであろう。群馬のトヨタにはブラジルやペルーの方が集団で住んで概ね単一民族であるが、新宿区は110カ国の人で色々な言葉が入り混じっている。70%が韓国と中国で後はフランスなどの欧米、フィリピン、タイなどの人々が集っている。飯田橋にはフランス小学校が有るリセがあるので、神楽坂界限にはフランス人が多く在住している。新宿区では外国人がそれなりに住み分けている。歌舞伎町は韓国や中国が多い。韓国でも住み分けている。大久保は韓国のキリスト教会があり、教会を中心として社会を作り、フィリピンもクリスチャンがおおいので、フィリピン教会がちゅうしんである。ソサエティをつくりにくいのがタイで仏教国であるから、中々ない。タイはお店があり、そこを中心としている。こちらに来た子供達は日本に定住する。外国に戻る事はない。従って、日本に慣れる必要がある。日本の社会に溶け込むようにならねばならない。彼らは日本に夢を求めて来たので、わたしは少しでもその人達を支援してもいいんじゃないかと思っている。日本人も一人くらい人のいいのがいるというような具合で。私はこれを内なる国際化と呼んでいる。国際化が海外への支援だけと考えるODAは海外へ支援をしているが、国内にも支援をして欲しい。元中学の教頭先生の女性が‘この活動をして、この子供達は決して私達を裏切らないだろう’と言われた事が印象に残っている。やろうと思うと頼もしい人が多く来てくれる。私はここ何年かで若返りましたねと言われた事が嬉しい。何かやる事が見つかると一人でほくそ笑んでいる事がプラスになるのかなと思っている。

開田: 私も一度‘みんなのおうち’を訪問した事がある。これは死ぬなと思うくらいの厳しさであった。

子供は生意気であるが、行く所がない。従って、ここは居心地がいいのであろう。横井さん何か

横井: 私は書道を趣味にしている。墨をすったりするボランティアなどがあればしたいと考えているが、なかなか、一步が踏み出せない。

小林: ズーずし過ぎる方がいいのかも知れない。普通は500時間も必要なのに私は日本語を20時間習っただけで教えている。500時間の先生が必ずしも良いとは思わない。泥縄でやっていると初心者をお教えしたりしてスタートで結構何とかなる。自分を追い詰めると結構いけると思っている。

嶋崎: お話を聞き凄いな、説得力があるなと感じました。私も何かやりたいと思っているのですが、今は保育園をやめて母の介護をしております。子供の学校の読み書きを教えていたのですが、今はパートをしております。現実的に色々な講座を受けているのですがそれが中々一つにならない。これまで家庭支援センターで心理の相談員をしたりしていましたが、今は保育園のアルバイトをしています。やはり資格を何か取らなければと思っているのですが。

小林: 資格をもっているからいいとは限らないと思いますよ。

嶋崎: 保育園から色々相談を受けていた。それを継続してやってゆきたい。

小林: 最初ボランティアから入って、途中からお金がついてくるような感じで行くといいと思います。

磯部: 私には孫がいるが、小さな子どもへの情熱が持てればいいと思っている。子どもへ先行投資をする。人を育てるのは後からいいことが来ると考えている。男性は連れ合いが亡くなると早く死ぬといわれているが、それがよく判る。何かをする時に、心してやらねばと思った。

小林: お孫さんの面倒をみれるなら、他の子を見るのもOKですよ。

磯部: 行政に対して今後どうすればいいのか

小林: 広報で委員を公募するのが結構ある。それに参加していると、区の職員と知合いが出来、その中で自分と波長の合う人がある。役所に行った時に挨拶をすることでつないでおく。児童館のお手伝いをさせてもらうなど名刺交換では必ずホルダに保管する。のみに行くときは割りかんにして、担当者を逃さないことが大切。私は公募で委員にチャレンジした。担当者とは知合いになっておくと色々便利です。

磯部: 行政って、担当が変わるじゃないですか

小林: 縦割りなのでそれはある。今度来た人と上手くゆかない場合がある。それでも3年くらいで変わるし、既に知合った人が他部署に行きチャンスは増えるかもしれない。

磯部: 先生は90%以上がプラス思考ですね。ボランティアではそれが大切なのでしょうね。

小林: 私は先にも言ったように、悪い事をしていないので、聞いてくれてもいいでしょとの事である。

開田: 落ちぼれの3人を高校に案内し、足代を親に出せなんて、何でそこまでするのという事が我々には信じられない。その人のためにやるのだという事が連続している。今の小林さんを見ていると常にプラス志向で繋がっているところが凄い。自分も今まで出来ないと思ってきた事が出来るかと思ひ始めた。

小林: 結果を見ているからそう思うので、xx講座を受け、また次の講座との時期があった。たまたま一つがヒットした。子供に未来があって、子供って大人に左右されていいの、勝手に子供の未来をつぶしていいの、夫婦が勝手に離婚しているが子供はどうなの、と考えた時、子供は必ずキズを負っている。子供には公平に機会があってもいいのではないかと言う思いが基本である。だから子供を支援したいが、それには親を支援しなければと思った。子供を支えるのではなく、親を支えねばとの事であるが、やってみたら親は中々変らない。従って、子供達を直接支援した方が効果有りと考えを変えた。

滝沢: プライベートに立ち入るかもしれないので、お答え頂かなくても結構ですが、ご主人はどんな風感じておられるのか。小林さんのやっておられる事は本来行政がサポートすべき事をやっておられる、日本の中に定住する子供達を将来の日本を担わしてもらうように、先きざきを考えているのが凄いなと思いました。それは3人の子育てをされた事が原点でしょうか。

小林: 私は今は子育ては完了したと思っている。残りの人生を自分のやりたい事をやりたいと思っているが、うちの主人はわたしが何をしているかその中味を知らない。今まで、主人の父親の介護をしてきたし、一応やるべき事はやったと思っている。これを20年間してきたので、ここ7年はやりたい事をやらせて欲しいと思って来た。結婚して仕事を辞めたくなかったが、辞めざるを得なかった。その背景を主人は知っているのに、復帰したときも反対しなかった。次の世代に対して、自己がやりたい放題やって次の世代にその付けを押付けるのは良くない。自分として何かやったなあというものが欲しかった。主婦は退職金もなくその思いが無かった。死ぬとは思っていなかった人が突然亡くなったので、それがきっかけとなった。友人の子供24歳を癌で見取った。その子は16歳から発病し最後の2週間は意識が無かったが、病院ではベッドに横になるのではなく、座って過ごす事がプライベートであった。愈々意識がなく、亡くなるのを待つだけとなり、牛乳を飲みたいといったが気管につまったらしく、吐き出した。無意識であるが、誤飲で命がなくなるという事をゲボツ吐いた事で生きたいとの証を知った。

西田: 何かやらねばと今は週5日アルバイトで働いている。何かやりたいと思っているだけで何を踏み

出せばと話を聞いている。若いうちにそれなりの知職、教養があり、その段階の話であれば入り易かった。そうでなければ悶々とする事がなかった。

小林:今それでここに参加しているという事でしょうか

西田:私にはとても貴重な時間です。日本語ボランティアをしている人を知っている。東南アジア系の人に教えているが大変な思いをして資格を取ってられ、その方の話しに興味を持って聞いている。先生の所は高校生を教えているのでしょうか

小林:中学生と小学生だけです。受験生も大変であるが、(外国の)大人は日本語が話せても読み書きできない人が多い。その様な人は言葉が話せても、専門用語が必要な医者や病院にはかかれぬ。日本語を教わりたいとの大人は一杯いる。正式な資格を持った人は留学生などに教えたなら良いので、我々は日本人と話す機会がないような大人を対象にすればいいのではと思っている。働きにきている人の支援をする事が目的であり、必ずしも資格を持った人を求めているというのではない。水族館に生れて始めて行ったというアジア系のお母さんがいた。一緒に葛西臨海公園に行き、会話をするだけで良い。資格を持たなくともそのようなボランティアは必要である。

西田:日の出町には‘子育て支援’の登りが出ているが、実際何を求めているのかを知りたい。

開田:それは行政の方が来ているので、この後話を聞いて頂くといいと思います。時間となりました本日はどうもありがとうございました。

以上。